

各関係機関長 様

佐賀県農業技術防除センター所長

**アザミウマ類、コナジラミ類の施設栽培終了後の
野外への飛び出し防止対策の徹底について**



キュウリ 黄化えそ病

キュウリ、トマトにおけるアザミウマ類やコナジラミ類は、現在栽培中の施設から飛び出すと、野外で増殖します。その後、次作において施設に再び侵入し、**秋期のウイルス病の発生**（参考データ）の原因となります。**ウイルス病の伝染環を断ち切るためには、栽培終了時に媒介虫を施設内で死滅させることが重要です。**

については、下記事項を参考に対策を徹底するよう生産者への指導をお願いします。

記

1. 現在の状況

5月13～19日に実施した定期調査の結果は、以下のとおりであった。

- 1) キュウリにおけるアザミウマ類の発生株率は13.0%（平年16.4%）、コナジラミ類の発生株率は2%（平年3.7%）であり、両害虫とも平年並であったが、前回（4月）の調査時に比べて増加した。
- 2) トマトにおけるコナジラミ類の発生株率は、15.0%（平年14.2%）であり、平年並であったが、前回（4月）の調査時に比べて増加した。

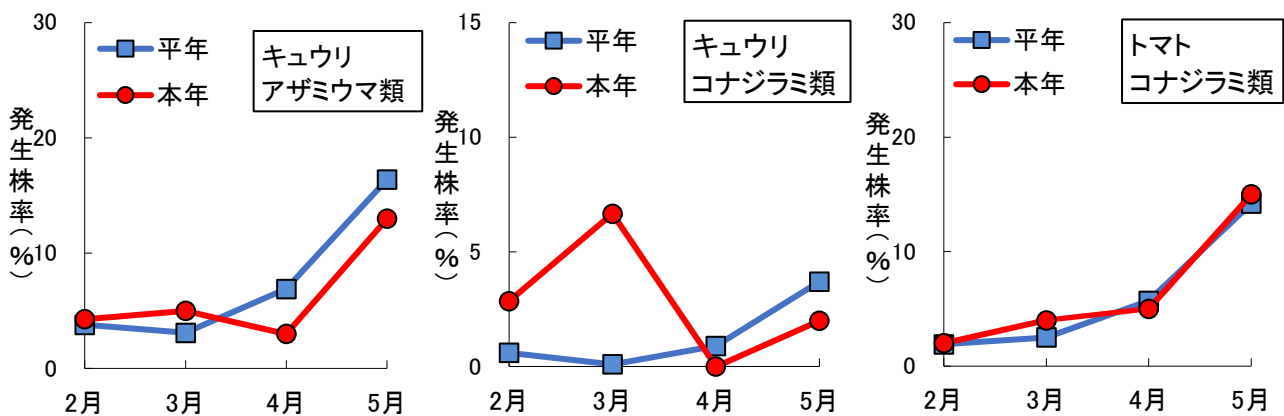


図1 キュウリ、トマトでのアザミウマ類、コナジラミ類の発生推移

【参考データ】

病害虫診断における主な虫媒伝染性ウイルス病の月別診断件数^{注)}

| 作物名・病名 (媒介虫名) | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 |
|--------------------------|----|----|-----|-----|-----|
| キュウリ・黄化えそ病 (ミキイアザミウマ) | 12 | 29 | 29 | 13 | 10 |
| キュウリ・退緑黄化病 (ハコナジラミ) | 3 | 11 | 13 | 2 | 0 |
| トマト・黄化葉巻病 (ハコナジラミ) | 0 | 12 | 4 | 2 | 1 |

・虫媒ウイルス病の診断件数は9～10月が多い。
・その要因として、野外で越冬したウイルス保毒虫が、秋になってハウス内へ侵入するためと考えられる。

注) 平成20年～令和3年の合計件数

2. 栽培終了後の防除対策

施設内に残ったアザミウマ類やコナジラミ類が野外へ飛び出すと、次作の伝染源となる（図2）。これら害虫の確実な死滅と、ウイルス病罹病株を確実に枯死させるために、十分な期間を確保し、施設の密閉処理（蒸し込み）を必ず行う（図3）。

3. 野外の雑草の除去

施設内から飛び出したアザミウマ類やコナジラミ類は、近くの雑草や寄主作物など多くの作物に寄生して増殖するため、増殖源となる野外の雑草は徹底して除去する。

4. 地域ぐるみの防除活動

アザミウマ類やコナジラミ類は、キュウリ、トマトだけでなく、他の施設野菜類、花き類など多くの作物に寄生するため、地域全体で一体となって飛び出し防止等の対策を行う。



図2 アザミウマ類、コナジラミ類の主な生息場所（イメージ図）

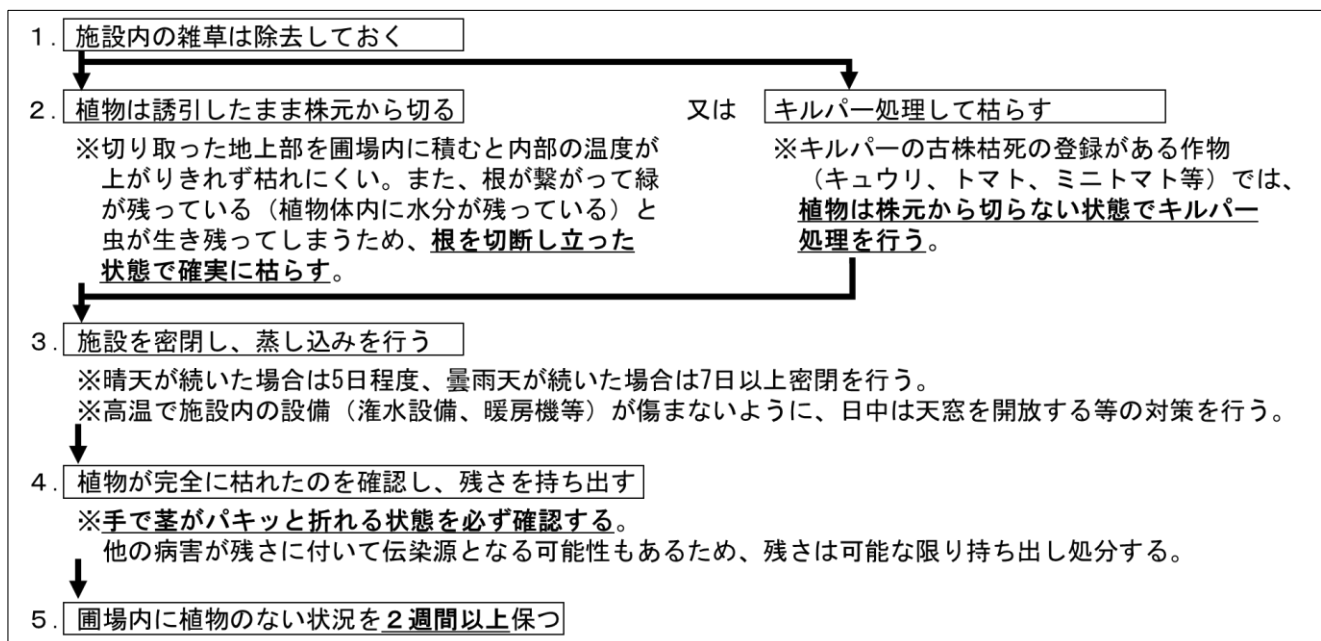


図3 施設の密閉処理（蒸し込み）の手順

連絡先：佐賀県農業技術防除センター 病害虫防除部

〒840 - 2205 佐賀市川副町南里 1088

TEL (0952) 45 - 8153 FAX (0952) 45 - 5085

Mail nougyougijutsu@pref.saga.lg.jp

ホームページアドレス <https://www.pref.saga.lg.jp/kiji00321899/index.html>

